

**北九州市開催 <北九州焼きうどんラウンド> H28.2.13(sat) 北九州市立思永中学校****北九州焼きうどんラウンドが開催されました。**

(参加者:小学校教職員9名、中学校教職員14名、指導主事4名、大学教員7名、学生4名、合計38名:その中で、岩手から1名、鹿児島から2名、広島から3名、佐賀から3名、大分から1名と遠方から多くの参加をいただきました。ありがとうございました。)

**1 春一番**

当日は、春一番が吹くという予報、さらに雨で足元が悪く、季節外れの18度の暖かさの中、多くの方が、小倉藩の藩校「思永館」が校名の由来である、思永中学校に集まっていただきました。

思永中学校は、民間委託の公営プールとの併設で、学校のプールの学習は恵まれた環境の中実施できているとのことで、休憩中には施設見学も行われました。

**2 九州共立大学 木寺 英史 先生による話題提供**

日ごろ、授業実践の報告や行政の取り組みなどが多く報告される九州ネットですが、今回は、九州共立大学の木寺英史先生から「授業に活かせる身体操作法」と題して、日本人の形態(骨格のつくりや姿勢)の特徴や生活や運動の動作に中に見る力学的なお話を分かりやすく説明していただきました。「抜重」や「屈曲・伸展」といった基本的な動作(動き方)を見直すことに多くの参加者が興味を惹かれました。武道の構えや左自然体が前に進みやすいこと、左右対称に関すること、ローリングの動作など、指導者が意識し、知って指導すると役立つ話がいくつも聞かれました。

**3 話題提供を踏まえたグループワーク**

木寺先生の講話を起点に、次の3点で班別ワークを行いました。

ア 身体操作法を授業で生かす場面、イ 体育の授業で子供の動きの変化を見取る工夫、ウ 態度、思考判断が高まった変化を見取る工夫、…すでにアの段階で白熱した議論がなされ、三つの視点のすべての議論をするには、時間が不足してしまいました。体育の教師として、子供の動きを見る重要性、子供自身が持つ課題意識や悩みに教師がどのように向き合うかなど、さらには見ているようで見逃している子供の動きや細やかな指導など、多くの視点で議論がなされました。今回の班別ワークは、小学校、中学校、大学、学生を交えた班構成で、立場の違いや校種による現状の違いを意識したり、理解したりする機会になりました。

**4 鹿屋体育大学 佐藤 豊 先生による情報提供**

佐藤先生からは、「体育学習とスポーツの価値」と題して、オリンピック開催やスポーツ庁設立のこの時期にあたって、「スポーツにおける深い学習」や「スポーツの内在的価値と授業づくり」などの情報提供がなされました。前段の木寺先生のお話は、体育・スポーツ好きには、興味深く、話していて、つつい動きや技能向上の話に入り込みそうなところを、誰のための体育の授業かといった視点から、苦手な子供にも、苦手な先生にとっても、体育が価値ある素晴らしいものであることやそれを夢ある楽しいこととして、生涯に渡って大切と思える授業を作っていこうという話がなされました。小学校、中学校、教育行政、教員養成をしている大学、これから現場に出る学生それぞれにできる体育の価値や楽しさを広げる授業の大切さに気付かせられる問題提起をしていただきました。

**5 情報交換会**

情報交換会は、小倉駅からほど近い場所で22名の参加で開催されました。今回の内容や日ごろの実践、今後、試してみたいことなど、それぞれが席の近い方と熱く議論を重ねていました。「北九州焼うどんラウンド」、当日のお店のメニューには、焼うどんはなく、近くのうどん屋さんで二次会でした。ところが、チェーン店では、メニューにある焼うどんがその店舗だけではなく、店を出ようとしたところ、ふと見ると佐藤先生がすでにおでんを食べ始めており、周囲の者は唖然、泣く泣く別の名物の「おはぎ(ぼた餅)」を食べました。気が済まなかった地元、中学校の校長先生が一銭洋食屋さんを紹介し、無事、「焼うどん」を食べ、心穏やかに、帰路や床につくことができました。(報告:青木)